

テリハボクに関する台湾林業試験所との国際共同研究

1. はじめに

森林総合研究所林木育種センターは、気候変動に適応した育種技術の高度化のため、耐風性・耐潮性に優れたテリハボクの育種について、台湾林業試験所との国際共同研究を進めています。

テリハボク (*Calophyllum inophyllum*) は、アジア・アフリカをはじめ熱帯～亜熱帯の海岸域に広く分布する常緑広葉樹です。その優良な材が利用されるだけでなく、東南アジアや太平洋諸島では、種子から取れる良質なオイルが化粧品等の原料としても利用されています。

日本の沖縄はテリハボクの分布北限域にあたり、その高い耐風・耐潮性から、先島諸島等では防風林として使用される主要樹種です。



写真1 テリハボクの巨樹（左）と新規造成中のテリハボクの防風林（右）

2. これまでの取り組み

防風林および材の活用等に資する優良なテリハボクの選抜のため、2009～2010年に八重山諸島・宮古諸島の島々からテリハボクの母樹を選びました。それら母樹から種子を採取して苗木を育成し、西表熱帯林育種技術園内に植栽試験地を設定し、苗木の成長や材質・樹形等の形質を評価するための試験を開始しました。

さらにテリハボクは世界中に幅広く分布して



写真2 西表熱帯林育種技術園に設定されたテリハボク試験区の様子（2013年撮影）

いることから、遺伝的多様性や形質の地域性を把握するため、台湾林業試験所と共同研究契約を結び、台湾と西表島それぞれに産地試験地を設定しました（台湾には2014年に2箇所設定）。



写真3 台湾に設定されたテリハボク産地試験地の様子
植栽個体の生育状況を日本・台湾双方の研究者が確認（2016年5月）

3. 今後に向けて

今後、植栽した苗木の成長に伴い、試験結果をさらに蓄積し、広域的な産地や家系による特性の違いを明らかにするとともに、防風林の早期造成等に資する有用なテリハボクを選抜していくことを目指しています。

（海外協力部 海外協力課 松下 通也）

表紙タイトル写真は、昨年1月に種子を播いて成長したコンテナ苗。およそ1年で山出し可能な状態に成長している。

※紙へリサイクル可



林木育種情報 No. 22

平成28年7月19日発行

国立研究開発法人 森林総合研究所 林木育種センター
〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL: 0294-39-7000 (代)

FAX: 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>